

# 新潟港改修ト港口ノ浚渫

論議

論議

土木學會誌

第一卷第五號

大正四年十月

工學博士 市瀬恭次郎

1833

余ハ先年内務省土木局調査課ニアリシ頃新潟港ノ修築計畫ニ關シ多少考慮ヲ廻ラセシコトアリシカ當時ハ信濃川ノ河口カ改修ニヨリ豫定ノ深サ則チ干潮面以下二十五尺ヲ維持シ得ルモノナルコトヲ條件トシ専ラ内港ノ設備ニ關シ大體ノ計畫ヲ立テシモノニシテ同川河口ノ浚渫及ヒ其維持ニ關シテハ特ニ研究セシコトナキヲ以テ安藝工學士ノ報告ニ係ル「新潟港改修ト港口ノ浚渫」ニ關シ充分ニ論議スルコト能ハサルハ遺憾トスル所ナリ報告ニ云ヘルカ如ク河口ノ浚渫ハ信濃川ノ分水工事ト阿賀野川ノ改修工事トカ完成シテ兩川ノ洪水カ新潟河口ニ其跡ヲ絶チ門洲發生ノ主要原因カ消滅スルニアラサレハ其効果ヲ收ムルコト容易ナラサルヘシ報告中ニ冬季偏西風ニ基因スル表面海流ト海底ニ於ケルこんべんせいしょんかゝれんとトノ關係ヲ事例ニヨリ説明セラレタルハ面白ク感セラル唯タ此報告ヲ閱讀スルニ當リ望蜀ノ念ニ驅ラレ報告者ニ要求シタキハ出水後ノ門洲ハ明治三十一年突堤工事著手當時ニ比シ最近ニ於テ沖ニ向ヒ進出セシ形跡ハナキカ又第三圖ニハ水戸敷ノ記録ヨリ明治三十年以降ニ於ケル落筋水深ノ變化ヲ比較シテ此水深ハ水戸ノ最淺部ヲ指示スルモノナリヤ或ハ落筋ノ或ル一定セル位置ノ水深ノ變化ヲ示セルモノナリヤヲ説明セラレタキコト之レナリ尙ホ添附ノ平面圖ニヨルニ突堤ノ法線ト海部浚渫區

域ノ區劃線トハ其方向ヲ異ニシ前者ハ濬筋ヲ東ニ誘ハントシ後者ハ海底深部ニ最モ近キ方向則チ北ニ濬ヲ開カントスルモノ、如シ之レハ突堤計畫當時ニアリテハ專ラ河水ノ力ニヨリテ河口ノ水深ヲ維持セントスルニアリシモノカ近年ニ於ケル浚深船ノ偉大ナル發達ニ鑑ミ之ヲ利用スルニ當リ海底深部ニ最モ近キモノヲ撰ミシヨリ斯ノ如キ形ヲナスニ至リシモノカ或ハ他ニ理由ノ存スルモノアルカ若シ此點ニ關スル説明ヲ聞クコトヲ得ハ幸甚(完)

工學博士 小柴保人

本會々誌第一卷第三號ニ於テ安藝工學士ハ新潟港改修ト港口ノ浚深ナル貴重ノ報告ヲ發表セラレタリ生ハ信濃川河口改修工事着手前ヨリ明治四十四年三月ニ至ル十數年ノ長年月間氏ト新潟市内務省土木出張所前ニハ第三區土木監督署ニ在ツテ同僚タリシ緣故アリ眞摯ナル謝意ヲ以テ之レヲ通讀セリ本報告ニ對シ毛頭異議アルニアラス唯聊カ附録セント欲スルモノアリナレトモ其ハ極メテ粗略實ニ蛇足タルヲ免レサルヘク切ニ讀者ノ宥恕ヲ乞フ

信濃川河口改修工事(新潟港改修)ハ庄川河口改修工事(伏木港改修)ト共ニ工學博士古市公威氏ノ英斷ニヨリテ起工セラレシモノナリ後者ハ大正元年ニ竣成ヲ告ケ其成績今日ニ至リ愈々顯著ナリ前者ハ今日確實ニ其目的ヲ達スルコトヲ得タルヲ認メラル今ヤ生ハ古市博士ニ對シ責任ノ幾分ヲ果シタルヲ思ヒ大ニ愉快ヲ感セサルヲ得サルナリ

新潟港突堤工事ハ實ニ難工事ナリキ本工事ニ對シテハ隨分無鐵砲トノ批評ヲ受ケシコト度々アリ生等ハ固ヨリ此種工事ノ經驗ニ乏シカリシヲ以テ常ニ恐懼ノ念ヲ脱スルコト能ハサリキ港口